

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 6 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25370236

研究課題名(和文) 戦国期島津氏の領国文化とその近世的再編を支えた文芸環境の研究

研究課題名(英文) A Study of the Literary Cultural Environment that Supported the Sengoku Shimazu's Territorial Cultures and Their Early Modern Adaptation and Reorganization

研究代表者

鈴木 彰 (SUZUKI, Akira)

立教大学・文学部・教授

研究者番号：40287941

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、戦国期の島津氏が育てていった文芸環境の実態把握、戦国期の状況が、近世薩摩藩の諸文化へと再編される様相の具体的把握という二点である。これを達成するため、鹿児島県歴史資料センター黎明館・鹿児島県立図書館等の諸機関に赴き、所蔵資料の調査を行うとともに、歴代の島津家当主や新納・樺山・山田家等の人々の文芸活動に関する資料群の分析に取り組んだ。その成果として、これまで知られていなかった中世文芸(とくに幸若舞曲等の語り物文芸)の受容や地域社会への伝播、島津家の歴史認識の形成と展開に関する新事実を発見し、紹介することができた。

研究成果の概要(英文)：This research has two goals: 1) to understand the literary cultural environment that the Shimazu clan fostered in the Sengoku period; 2) to understand the way in which this environment was reorganized into various cultures of the modern Satsuma domain. To achieve these goals, I conducted archival research in several institutions including Reimeikan and the Kagoshima Prefectural Library, and analyzed primary sources that record literary cultural activities by the successive heads of the Shimazu clan and members of Niiro, Kabayama, Yamada and other noted families. As a result, I discovered previously unknown facts regarding how medieval literary cultures (in particular, narrative literature such as kowaka bukyoku (ballad-drama)) were received and disseminated in local society, as well as how the Shimazu clan's perception of history was formed and developed. I also presented and published these new discoveries.

研究分野：日本文学・日本中世文学の研究

キーワード：島津氏 領国文化 日本中世文学 近世的再編 文芸環境 語り物 幸若舞曲

1. 研究開始当初の背景

近年の中世文学研究では、各作品の諸伝本の制作・伝来過程や、個々の近世諸文芸作品への影響といった観点から、近世的受容という問題もかなり扱われるようになってきた。ただし、その多くが個別作品の研究に留まっており、京や鎌倉といった中央権力の所在地以外の各地域が育んだ文芸環境を俯瞰した研究はまだ十分とはいえない。

島津氏領国の文芸環境についていえば、主に都の文化や都の文化人との交渉・交流という観点から、和歌・王朝物語・軍記物語・芸能・武家故実等の諸ジャンルごとの個別研究はあるものの、それらを総括して体系的に地域的特性を把握する作業が大きな課題として残されていた。

本研究代表者(以下、代表者)の一貫した研究課題は、中世軍記物語の多様な受容の実態、とりわけ、享受者たちの再創造の営みの中で姿を変え、さまざまに再生しながら継承される様相を、個々の事例が生じた時と場に応じて分析し、その成果を通時的に把握することである。近年ではそれを軸に据えながら、諸地域の人びとがその地域ならではの社会論理や事情に即して中世文芸を受容し、表現の再創造を続けていたことを解き明かし、その積み重ねによって中世文学研究の視座を更新することをめざしている。本研究はこうした問題意識を具体化し、いっそう深化させるために構想されたものであった。

申請時の背景・動機として、まず平成16~17年度と平成18~20年度の科研費による研究では、室町期の刀剣伝書や武家家伝・故実・家訓といった資料群の調査と検討を文学史的観点から推進した。その過程で、十九世紀の薩摩藩主島津斉興の精神基盤を形づくる重要な資料群を発見することとなった。そこで、平成21年度当時の所属機関の研究費、平成22~24年度の科研費に基づいて同資料群の悉皆調査と内容分析を続け、十九世紀から十六世紀へと溯行する形で島津家家伝の生成過程の解明を試みた。これらの研究を通して、近世島津氏は源頼朝末裔を公称したことともかかわって、軍記物語や兵法書を独特な姿勢で受容し、他地域・他家とは異なる個性的な扱いをしており、そうした文芸享受の姿勢が軍記物語以外の諸作品にも認められるという展望を得ることとなったのである。

中世・近世の移行期に、島津氏は自らの由緒を大きく組みかえている。このことに象徴されるように、戦国期島津氏の領国文化は、近世薩摩藩の文化へとそのまま継承されたわけではない。そして特に重要なことは、この間の変化には、中世の諸文芸がさまざまな形で、深く作用していることである。

以上のような理解と見通しを背景として、戦国期島津氏の豊かな領国文化を支えていた文芸環境に光を当て、またそれが近世薩摩藩内でどのように再編されたのかを検討することをめざしたこの研究課題を着想する

に至った。また、それを如実にものがたる個々の資料群に即して提示するため、(1)島津氏領内における戦国期の武家文化人たちの文事、(2)それを受容した薩摩藩藩政期(=近世)における武家文化人たちの文事、(3)そうした人びとの間を繋いだ媒介者たち(主に修験者・兵道者・盲僧)の活動、という三方面からアプローチするという構想を持つことにもなったのである。

2. 研究の目的

十三世紀以来南九州に領国を保ってきた島津氏をとりまく文化環境は、戦国期の社会変動に伴って新たな様相を呈することとなった。十六世紀は、全国各地で戦国大名を中心とした領国文化が花開いた時期であるが、本研究では、いくつかの重要な新出資料群をも視野に入れつつ、いまだ十分には解明されていない戦国期島津氏の文芸環境の実態を把握し、それが近世薩摩藩の諸文化へと再編されていく様相を具体的に跡づけることを目的とする。それによって、これまで手薄であった、諸地域に根ざした中世文芸(中世の文学、言説、芸能、故実、儀礼等を含意する)の受容と再生の様相をつかみ、それらを包括的にとらえた中世文学研究の新たな視座を獲得することをめざすこととした。

3. 研究の方法

上述した目的を達成するため、下記のような方法をとることとした。

(1) 資料調査

各年度ごとに重点項目を設定して、鹿児島県歴史資料センター黎明館、尚古集成館、鹿児島大学附属図書館、都城島津邸、ミュージアム知覧、東京大学史料編纂所等、関連資料を所蔵する機関で調査を行い、書誌情報や撮影した資料写真の画像データを収集する。一年目は島津忠良、二年目は島津義久・義弘、三年目は新納忠元をはじめとする新納家の人々、四年目は樺山玄佐ほか樺山家の人々と島津斉興に関する資料に重点を置いて調査に取り組む。五年目は、期間中の研究の補完をめざすこととした。

(2) 収集した資料の解読と分析

(1)により収集した資料を読み解き、島津氏の領国文化やそれを支える武家文化人たちの文芸活動の特徴づける事例を把握し、多角的に検討を加える。これについても年度ごとの重点テーマを軸とし、資料収集と連動させてできるだけ効率的に分析を進める。

(3) 資料紹介

重要資料については随時翻刻作業を開始し、本文データを蓄積する。

(4) 成果公開

論文・学会発表の他に、毎年一回、三月に鹿児島市内(会場は黎明館)での研究集会を開催し、当該年度の成果を口頭発表する。また、最終年度には、東京(会場は代表者の所属する立教大学)で成果を共有するための研

究集会を開催する。

4. 研究成果

資料調査・収集という面では、鹿児島県歴史資料センター黎明館・鹿児島県立図書館・鹿児島大学附属図書館・姶良町歴史民俗資料館・伊佐市立大口図書館・都城島津邸・ミュージアム知覧・沖縄県立図書館・沖縄県公文書館・霧島市立隼人歴史民俗資料館・坊津歴史資料センター輝津館・鹿児島市立美術館・都城市立美術館・大隅郷土館などの各機関において、関連資料の原本を実見し、デジタルカメラで撮影するなどして、関連資料の分布状況を把握するとともに、手元にそれらの画像データを蓄積することで、分析のための基礎資料の充実を図ることができた。このことが、期間中の口頭発表・論文・著書をまとめるための基盤として活かしている。

分析を通して得られた知見のうち、代表的な事柄は以下のとおりである。

- (1) 文禄・慶長の役に従軍した当事者たちによる「覚書」という資料群がもつ、文芸資料としての意義・価値を発見し、その具体的な表現の様相について分析を加えた。全国規模で作成されていた同様の覚書について、文芸という観点からの調査に取り組むことが必要であることを指摘し、そうした活動にも従事し始めた。
- (2) 薩摩・大隅・日向という島津氏領国で受容された幸若舞曲の受容史に関わる、これまでには知られていなかった複数の資料を発見し、注目すべきその様相に光を当て、口頭発表・論文の形で公表した。あわせて、幸若舞曲などの語り物の文体・表現に依拠した当該期の武士たちの文事について、仙台伊達家や加賀前田家などにおいても関連事例を複数発見し、論文としてもその一部について言及することができた。
- (3) 旧薩摩藩内に伝来した絵巻の伝存状況を把握する過程で、黎明館に寄託された『武家物語絵巻』の素性(実は従来知られていなかったお伽草子『土蜘蛛』の一伝本であること)を解き明かし、そのことの意義を指摘した。他にも、従来は知られていなかった16世紀の絵巻残闕本、近世中期の『曾我物語』・富士巻狩や『平家物語』・一の谷合戦にかかわる屏風が各地に現存していることを確認することができた(その内容の紹介と本格的な分析は今後の課題となる)。
- (4) 坊津一乗院に成り立っていた文化的環境について、資料学的な裏付けを踏まえながら検討し、その成果を論文として公刊することができた。
- (5) 十九世紀の薩摩藩内に、戦国期の島津氏歴代やその指揮のもとで生きた人々の姿を慕い、それを回顧する動きが生じていることを論文で指摘することができた。
- (6) ミュージアム知覧などで所蔵する南薩の神事絵巻・絵幕について、その画面に幸

若舞曲からの影響が及んでいることや、それらの制作と伝播の様相について分析を加え、結果を論文・講演等の形で公表できた。あわせて、南薩という地域に独特なこれらの資料群についての理解をいっそう深めることができた。

- (7) 文禄・慶長の役で薩摩に連行されてきた被虜人の文事に関する資料を発見し、その意義について検討を進めることができた。この点は、当初は予期していなかった成果にあたる。

以上のような諸点をはじめとして、関連論稿を公表することができた。そのため、たとえば軍記・語り物研究会大会や日本近世文学会秋季大会などの国内学会や、韓国外国語大学などの海外の大学等においても、発表・講演等の形で成果を公表する機会を与えられた。それは、本研究がもつインパクトと深くかかわっていると考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計23件)

- 鈴木彰「大島忠泰の文事と『平家物語』・お伽草子・幸若舞曲 『古今戦』にみる薩摩の文化環境」、『民衆史研究』第94号、査読有、民衆史研究会、2018、3頁～16頁
- 鈴木彰「南薩の神事絵幕・絵巻の諸本展開 門之浦本・平峰家本・樫木家本の図像比較から」、『ミュージアム知覧紀要・館報』第15号、査読無、ミュージアム知覧、2018(刊行予定)、頁数未定
- 鈴木彰「藩主島津斉興像を問いなおす 島津家第二十七世としての文武の実践」、『近世文藝』第108号、査読有、日本近世文学会、2018(刊行予定)、頁数未定
- 鈴木彰「幸若舞曲の時空」、『軍記と語り物』第53号、査読有、軍記・語り物研究会、2017、42頁～53頁
- 鈴木彰「『八幡愚童訓』の一側面 神功皇后像と故事としての伝伝」、『張龍妹・小峯和明編『アジア遊学 207 東アジアの女性と仏教と文学』、査読無、勉誠出版、2017、209頁～221頁
- 鈴木彰「文化拠点としての坊津一乗院 涅槃図と仏舎利をめぐる語りの位相」、『荒木浩・近本謙介・李銘敬編『アジア遊学 208 ひと・もの・知の往来 シルクロードの文化学』、査読無、勉誠出版、2017、217頁～233頁
- 鈴木彰「声と文 中世語り物文芸から近世芸能へ」、『河野貴美子・Wiebke DENECKE・新川登亀男・陣野英則・谷口眞子・宗像和重編『日本「文」学史第二冊「文」と人びと 継承と断絶』、査読無、勉誠出版、2017、522頁～531頁
- 鈴木彰「天竺・合戦・幸若舞」『智恵

こそ本(ほん)」ということ 」、小峯和明編『東アジアの伝文学』、査読無、勉誠出版、2017、517頁～542頁
鈴木彰「鹿児島県歴史資料センター黎明館寄託個人蔵『(武家物語絵巻)』について お伽草子『土蜘蛛』の一伝本 」、小峯和明監修・目黒将史編『シリーズ日本文学の展望を拓く第五巻 資料学の現在』、査読無、笠間書院、2017、28頁～45頁
鈴木彰「幕末・明治期の薩摩藩・島津家と泗川の戦い 『倭文麻環』にあらわれた事件認識をめぐって 」、前田雅之編『幕末明治 移行期の思想と文化』、査読無、勉誠出版、2016、42頁～67頁
鈴木彰「硫黄島の安徳天皇伝承と薩摩藩・島津斉興 文政十年の「宝鏡」召し上げをめぐって 」、井上泰至編『近世日本の歴史叙述と対外意識』、査読無、勉誠出版、2016、85頁～113頁
鈴木彰「泗川の戦いにおける奇瑞演出の背景 島津氏を護る狐と近衛家、幸若舞曲 」、『朱』第58号、査読無、伏見大社、2015、62頁～80頁
鈴木彰「文芸としての「覚書」 合戦の体験とその物語化 」、『文学』隔月刊第16巻第2号、査読無、岩波書店、2015、136頁～152頁
鈴木彰「ミュージアム知覧蔵平峰家本「富士巻狩図」について 門之浦本・櫛木家本とのあわいを探る 」、『ミュージアム知覧紀要・館報』第14号、査読無、ミュージアム知覧、2015、(9)頁～(17)頁
鈴木彰「蒙古襲来と軍記物語の生成 『八幡愚童訓』甲本を窓として 」、日下力監修、鈴木彰・三澤裕子編『いくさと物語の中世』、査読無、汲古書院、2015、109頁～129頁
鈴木彰「文芸としての渡海記・漂流記 海と海域をめぐる表現の系脈 」、『淵民學志』第24輯、査読有、延世大学校測上古典研究会、2015、39頁～63頁
鈴木彰「島津重豪・薩摩藩と江戸の情報網 松浦静山『甲子夜話』を窓として 」、鈴木彰・林匡編『アジア遊学 190 島津重豪と薩摩の学問・文化』、査読無、勉誠出版、2015、207頁～222頁
鈴木彰「『一乗院経蔵記』にみる坊津一乗院と中世文芸 地域社会における文芸環境 」、『立教大学日本文学』第111号、査読有、立教大学日本文学会、2014、66頁～75頁
鈴木彰「『忠増渡海日記』と幸若舞 文芸としての「覚書」」、山本博文・堀新・曾根勇二編『豊臣政権の正体』、査読無、柏書房、2014、123頁～147頁
鈴木彰「薩摩海域の龍宮伝承 中近世移行期における薩摩の文化環境 」、『立教大学日本学研究所年報』第12号、査読無、立教大学日本学研究所、2014、65頁～77頁

- ②鈴木彰「戦争の記憶と文学」、高橋典幸編『生活と文化の歴史学5 戦争と平和』、査読無、竹林舎、2014、505頁～527頁
②鈴木彰「戦争と文学」、小峯和明編『日本文学史』、査読無、吉川弘文館、2014、129頁～195頁
③鈴木彰「島津斉宣と斉興、その藩主としての祈り 重豪の時代の再定位に向けて」、特別企画展図録『島津重豪 薩摩を変えた博物大名』(鹿児島県歴史資料センター黎明館) 査読無、2013.9 154頁～160頁

〔学会発表〕(計13件)

- 鈴木彰「(講演)藩主島津斉興像を問いなおす 島津家第二十七世としての文武の実践 」、平成二十九年度日本近世文学学会秋季大会、2017
鈴木彰「移行期を生きる薩摩藩士の文事 『高麗渡』と『夢物語』 」、日本学研究所主催第六十回研究例会、2017
鈴木彰「幸若舞曲の時空」、軍記・語り物研究会二〇一六年度秋例会シンポジウム、2016
鈴木彰「文学としての漂流記・渡海記 海域の想像力と表現伝統 」、測上古典研究会「琉球と朝鮮の文化交流600年」学術大会、2015
鈴木彰「薩摩海域の龍宮伝承 中近世移行期における薩摩の文化環境 」、立教大学日本学研究所例会シンポジウム、2014
鈴木彰「天竺・合戦・幸若舞 十六・十七世紀文芸への視座」、立教大学日本学研究所国際シンポジウム「日本と東アジアの伝文学 と天竺世界」第3セッション、2014
鈴木彰「文芸としての「覚書」 合戦の体験とその物語化 」、伝承文学研究会平成二十六年度大会シンポジウム、2014
鈴木彰「16世紀における文化的拠点としての薩摩・坊津 釈迦 と天竺 に関する知識と想像力をめぐって 」、ロンドン大学 SOAS 主催ワークショップ「日本と東アジアの伝文学 と天竺世界」、2014
鈴木彰「硫黄島の安徳天皇伝承と薩摩藩 文政十年の神鏡召し上げ事件をめぐって 」、日本文学協会第69回(2014年度)大会ラウンドテーブル2、2014
鈴木彰「地域社会における中世文芸の受容と再生 南薩・坊津という窓から 」、立教大学日本文学会二〇一三年度大会、2013

〔図書〕(計3件)

- 鈴木彰・三澤裕子編『いくさと物語の中世』、汲古書院、2015、全630頁
鈴木彰・林匡編『アジア遊学 190 島津重豪と薩摩の学問・文化 近世後期博物大名の視野と実践 』、勉誠出版、2015、

全 224 頁

鈴木彰『〔現代語訳〕賤のおだまき 薩摩
の若衆平田三五郎の物語』、平凡社、2017
全 199 頁

〔その他〕

ホームページ等

立教大学日本学研究所ホームページ「イベン
ト・講演会」

第 60 回研究例会「薩摩藩の文芸とその環境
地域資料からの展望」

<http://www.rikkyo.ac.jp/research/institute/ijs/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 彰 (SUZUKI, Akira)

立教大学・文学部・教授

研究者番号：40287941